多様な人々と力を合わせ、
世界に誇れる美しい
街づくりをめざします。

『かぶとやま』のみりょく発見！子育て世代を支援し可能性を広げる活動

活動時期　2021 年 4 月～現在

活動場所　兵庫県立甲山森林公園（兵庫県西宮市）

甲山森林公園は都会の子どもたちにとって、遊びや自然のふれあいを通じ五感や行動力を磨くことができる格好の場所です。これまでの私たちの活動が認められ、2016 年、ひょうごパークマネジメントプランにより「子育て支援型公園」として位置づけられました。現役保育士、障害者施設スタッフ、大学関係者、自然観察指導員、地域の方々と連携して、子ども達が安心して遊べる場、チャレンジ精神を育む場づくりとして森の活用を行っています。森林を身近に感じ、素晴らしい環境について考える機会を創出しています。

活動の目的
公園の豊かな資源やそれに関わる人々の活動を通じて、幼児や子育て世代が学び・遊び・交流できる地域の子育て支援拠点となる公園づくりを目指しています。
また、乳幼児から自然に触れあうことで、森林を身近に感じ、参加する人がそれぞれに楽しみを見出しながら公園で過ごすことも目的としています。

取り組み・成果
これまでにはなかった、プレーパークや、ツリーイングなど子どものチャレンジ精神を育む場の提供や、多機能型障害児通所施設スタッフと学生ボランティアによる自然体験活動イベント、乳幼児を対象とした自然観察会の実施により、乳幼児から幅広い子育て世代の利用が増え、公園の活性化につながっています。

今後の目標・課題
多くの方に活動を知ってもらい、公園を活用してもらえるよう、今後は地域にも出張しながら広く広報を行っていきたいと考えています。またさらなる公園のイメージアップのため、外部の専門家と連携し、『かぶとやま』らしいオリジナル商品の開発・販売やミニマーケットを実施など、新たな公園利用の可能性を探ります。

活動実施団体　パークマネジメント甲山

1 ベビーカーも通れるルートの確認など事前準備し、乳幼児の家族を対象とした自然観察会を行いました。
2 現役保育士による造形遊びのイベント。芝生広場も使ってのびのびと。家ではできない大胆な絵具遊びが人気です。
3 学生ボランティアが主体となり、障害のあるなしに関わらず楽しめる、森を活用した斜面すべりを行いました。
4 甲山は兵庫県の真ん中あたりに当たるため、試行的にうみとまちとやまをつなぐミニマーケットを開催しました。
5 森の木を活用して、プレーパークを開催しました。　6 地域の方と幼稚園児が、花の植え替えや園内の清掃などを一緒に行いました。
7 改修工事で発生した廃材をスタッフが加工し、アップサイクル商品としてフラワーベースの作製販売を行っています。

1 芝生広場側エリア（光のフォレスト）　2 貴賓館前広場　3 福博であい橋（Nakasu Kibou no Hikari）

世界一幸せなクリスマス 福岡県営天神中央公園

活動時期　2022 年 11 月 4 日～ 2023 年 1 月 9 日

活動場所　福岡県営天神中央公園（福岡県福岡市中央区）

九州支店が指定管理者として管理運営を行っている福岡市中央区にある県営天神中央公園では 11 月 4 日から「福岡クリスマスマーケット」のイルミネーションが点灯しました。『世界一のクリスマス』をテーマに博多から天神を光と願いを込めたイルミネーションが繋ぎます。天神中央公園は芝生広場側エリア（光のフォレスト）、貴賓館前広場、福博であい橋（Nakasu Kibou no Hikari）の3エリアで多くの人が賑いました。

活動の目的
福岡クリスマスマーケットはそこに集う全ての人々が、「愛」、「喜び」、「感謝」、「安らぎ」、「愉快」、「希望」を感じることができ、「世界一のクリスマス」と言ってもらえる祭典を目指しています。

取り組み・成果
指定管理者として設営、開催、撤去までの間、他のイベントや芝生の養生期間、公園利用者との調整を行い、多くの人が賑い、楽しんだクリスマスマーケットを開催するためのサポートを行いました。

今後の目標・課題
クリスマスイルミネーションは多くの人が賑い、楽しむ一方で、電力消費を懸念する声を聴くことがあります。昨年行った西中洲エリアにおける実質 100％再生可能エネルギー電力への切り替えに続き、芝生広場側エリアにおいても実質 100％再生可能エネルギーへの切り替えを進めます。

1 12 月販売クリスマスオーナメント。アズマネザサ紹介も封入（右上）。　2 2 月販売は鬼と恵方巻。アズマネザサの芯の空洞を活かし恵方巻に。
3 販売風景。子供も大人も楽しみながらアズマネザサを知ってもらいます。

使って保全！ アズマネザサのクラフトキット販売

活動時期　2022 年 12 月～ 2023 年 3 月

活動場所　生田緑地 東口ビジターセンター（神奈川県川崎市）

生田緑地には、かつての雑木林が今に引継がれるエリアがあります。ナラ枯れを契機に再認識しているのは「多様な生物が棲息する雑木林の生態系は人が管理をしてこそ成り立つこと」。今回は「下草刈り」に注目です。下草刈りによって林床が明るくなると埋土種子や草花が生長し、それを利用する昆虫等の多様な生物が訪れます。刈った後の下草は資源と捉え、緑地で占有率の高い下草 アズマネザサを使いクラフトキットを考案しました。

活動の目的
生田緑地の雑木林を次世代に残すために、アズマネザサの認知向上を図るとともに、アズマネザサ刈り活動への興味のキッカケとなることを目指しました。刈り取った下草を資源として有効活用することもねらいとしています。

取り組み・成果
ササの認知向上について、当初は来園者へ発信する思いで始めましたが、ふたを開けてみると生田緑地スタッフや関係者への周知に繋がった事が大きな一歩です。生田緑地内の岡本太郎美術館ワークショップでの実利用や、生田緑地イベント 森のマルシェ出展者から利用要望の声が寄せられた事は次のステップになりました。

今後の目標・課題
今回の作品をワークショップとして提供したいと考えています。ワークショップの最初にはアズマネザサ刈りを実際に行い、素材のルーツを知って、下草刈りの大切さを知って、雑木林を知ってもらいます。そこでもし予期せぬ生物達と出会えたら、雑木林の価値を体感することでしょう。楽しそう！ワクワク！から始めよう保全。